

装飾

用ふる事夥しき時は多くの精細なる部分は薄弱となり又は薄弱の觀を添ふるを以て宏壯強堅の觀念を打破するなり、即ち建築物の用途に従ひて裝飾と變化とを與ふるに加減なかるべからず、裝飾夥多に失する時は視覺を昏亂疲勞せしめ、意匠の優秀なるものを以てするも救済すべからざるなり。

裝飾を正しく施す時は多くの場合に於て言語となる、但し作者の之を語ること率直にして觀者の之を解すること正當なるを得る場合の外此言語は不通なり、實に裝飾は形象文字を以て綴りたる文章にして之を施せる建築物は歴史のなるなり、パーセノンの大間及び破風の彫刻の如きは外觀に變化を添へるのみならずパーセノンの宗教的、道德的歸着と密接の交渉ある歴史を語れるなり。

希臘式を極力庇護する者は之に何等の缺陷を歸することを許さず、雖其起源變遷の跡を研究する時は學者は缺陷の存在を覺えん、若し學者其技術に希臘式を採りて以て利する所あらんとせば普通参考書に見る側面圖を直ちに採りて設計するが如きは善良の方法に非ざる事を知らざるべからず、當初の

發明者自身を感動せしめたる觀念と感情とに自ら立入るに非ずんば徒に圖面に學ぶとも目的に適應せしむる事を得ざるなり。

希臘式建築美に關する此簡單なる一編を結ぶに當りアッソンの言を掲ぐるは當を得たりとせん、氏は曰く、

「斯かる作物の耐久性に對しては人生は匹敵するものに非ず、朽つべき物體に施さるゝ他の美術に關しては現代の世界は多くの年數を経たるが如きも建築の如く耐久の物體を以てする美術より見る時は尙ほ世界は若年なり、故に斯かる作物の改築を要するには四五年に非ずして數世紀後の事なるべし、此長期間を経ざる以前に既に建築物自身は神聖なる古色を帯び、古建築を保存するの新動機を提供せん、久しき以前より歐米に於ては建築物に希臘式の調味を採り以て此古式を現代に保存せり」云々と

## 二、希臘建築の起源

バビロニア、カルデア、及び埃及は太古既に建築術を了解し、印度も亦然るに似

たり、然れども眞の建築術は希臘に於て發達せるものなり、勿論パピロニア及び埃及建築と雖必ずしも美を具備せざるに非ず、かのコリンシヤン式柱頭の如きは實に埃及建築の葉花模様より意匠したるものなり。

希臘に於ける當初の建築物は頗る拙劣なるものにしてかのホーマー詩中のデルハイに於ける神殿の如きは埃及人の建築したるものにて、月桂葉を以て蔽ひたる茅屋に過ぎざりきと云ふ、紀元前一五一九年の頃カドムスは埃及及びフイニシアの諸神を希臘に傳へて之を崇拜せしめ且つ石工冶金の法を教へてより希臘の文明は急速の進歩を遂げ、紀元前一三七〇年の頃はオルコメヌスの王ミニアスの寶殿及びプロテウスの建てたりと稱するチリンスの城壁ありき、詩人ホーマー時代にありては主なる建築物は各地の酋長の居室にして、神聖なる建築物としては祭壇ありしのみ、然も祭壇は一の竈の如きものにて此上にて犠牲に供したる家畜を料理したるなり、其後祭壇は國王の宮殿中に設けられ爲めに宮殿の一部は神殿の代用をなしたりき、石材及び煉瓦は埃及人の普通使用したる材料にて希臘人が之を使用せしは稍々後年の事に

## 柱式の起

屬し、當初の神殿は悉く木造なりしなり。

柱式の起源に關してグイトルグイウスの説く所は信するに足らず、其時代は何れもホーマー以前なりとせるもホーマー自身は其詩に何等柱式の事を説かざるなり、ホーマーはネブチエン及びミナーヴァ神殿の事を述ぶるも之を詳細に説明せざるは蓋し之等が單に祭壇に過ぎざりし故ならん、グイトルグイウスの説に従へば、ドリツク式はアケイア及びペロポネサスの王ドルスがジュノ神の神殿を營みたるに起因し、アイオニツク式はアテネの將イオンが亞細亞のカリアを征服してアイオニア州を建設し多くの神殿を建てたるに起因し、コリンシヤン式の優雅なる柱頭はコリントの一少女の墓前に發見せられたる籃と莢<sup>アケシム</sup>芳とに起因すと云ふ。

## 三、希臘建築の發展

古代希臘の美術は其本國に於ける發達は恐らく緩漫なりしならんも小亞細亞に於ける殖民地は實に長足の進歩を爲しつゝありしなり、希臘建築は小亞

細亞に成長發育したるものにてドリツク、アイオニツク兩式の起源地なりとゴジエは論せり、コリンシャン式は希臘本國自身の發明にして稍後年に屬す希臘最古の神殿の一なるオリンピアのジュピター神殿は紀元前六三〇年頃の建築にしてエフェススのジアナ神殿も同年代の物なりと稱せられ兩者宏壯を極むるも技術の幼稚を免れず。

希臘の建築が當初唯一のドリツク式にのみ限られたりと信ずるは困難なると同時にアイオニツク式が遙にドリツク式に後れて生じたりと爲すも亦困難なり、アイオニツク及びコリンシャン兩式の柱頭を除きては此等の三式の中何れが最も豊富なりや斷言するを得ざるべく特に堅筋繪様大間の裝飾時として優美なるものあり、且つ此等の柱頭と埃及建築の柱頭とを比較する時は其起源自ら明白ならん、アイオニアの諸州はアイオニツク式を採り羅馬人はコリンシャン式を採れり、然れども誰かコリンシャン式を以て羅馬人の發明となさんや。

アイオニツク、コリンシャン兩式の顯著なる特徴は柱頭なり、然れども既に是より前埃及に於ては棕櫚、蓮渦形模様を以て柱頭を裝飾し、コリンシャン式柱頭の鈴形裝飾の如きは埃及の蓮花裝飾に頗る似たり、不幸にして希臘に於けるコリンシャン式に就きては吾人の知識制限せらるるもドリツク、アイオニツク二式の遺物に比してコリンシャン式の遺跡の甚だ稀なるは一は其構造の耐久的ならざるに依るべしと雖一は又希臘人の間にコリンシャン式が他の二式程稱讃せられざりしに依りしならん。

## 希臘建築附圖解説

## 第一圖 アゼンスのパーセノン神殿

ペリクレス時代の建築にして建築者はイクテラス彫刻者はカリクラテスなり、二二八呎に一〇〇呎の長方形にして柱は前後兩面に八個側面に各十七個を有したりき、此偉麗なる建築に關してはステュアート著「アゼンス」に詳説せり、プロナオスの天井は四個の柱に支へられし如く内障も柱に圍まれたるが如し、敷床上の柱の蹟に據れば直徑二呎一時を示し、柱間の距離は中心より八呎四時を示す、又二十面を有する多角形柱身の破片發見せられ、其直徑も二呎一時なり、前廊の各柱身は十二面の石より成り、柱床に二個の圓を描き、外圓は端點より磨かれたる表面まで九時、兩圓間の表面は水平なるも磨かれず、内圓は粗にして少しく窪みたるは漆喰の爲めならん、略中心に深き三時の四角形の孔あり、又其上部の石にも孔ありて之に間釘 (rowel) を挿入したるなり、中層の石が I 字形の鋸を以て留めたるは注目に値す、柱の直徑はステュア

トに従へば六呎二吋一二なるも本附圖にては六呎二吋七二とし、其六十分の一即ち一時二四五三二を一度とせり。

## 第二圖 ビースタムの大六角殿

此神殿の年代は明ならず、長さ上段に於て二〇二呎六吋幅八二呎二吋なり、各側面に十四個の柱を有し、其直徑六呎八吋二、即ち一度は一時三三六六に當る。

第三圖 デロス島のアポロ神殿とフィリップの  
前廊及びコリントの神殿

ステュアート曰く、デロス島に最も優秀なる二個のドリツク式の例あり、一はアポロの神殿、他はフィリップの前廊に屬したるものと信ず、此等の建築物の面積構造は今之を知るに由なきも、アポロ神殿に屬したる二個の柱身は上下兩端に溝を施し、其中間は平面なり、直徑三呎一時一、一度は〇吋六一八五なり、フィリップ前廊の柱は直徑二呎一時五、一度は〇吋五九一六なり、柱身の下半の三分の一以上は多角形にして、其上部に溝を施せり、ステュアートはコリントに於ける神殿を周圍に柱を列ねたる六角堂なりしならんと思像せ

り、柱は二十溝を有し、柱頭の楯石に終りて圓弧をなす、滴(drip)は圓く軒縁より分離し、材料は粗なる石を以てせり、柱身は各一塊石より成り、之に化粧漆喰を施し、軒縁は柱の中心より中心まで一個の石なり、柱の直径五呎一〇吋、一度は一吋一六六六に當る。

#### 第四及五圖 イリツサス河畔のアイオニツク神殿

此神殿はイリツサス河の南岸に位したるものにて、其長さ上段に於て四一呎七吋幅一九呎六吋なり、柱頭の圓剝形(echinus)は渦形の下に連り、渦形は二個の半渦形を接合せるため、外角に於て對角線をなし、内角に於て留面をなす、溝は二十四個を有す、柱の直径一呎九吋四、一度は〇吋三五五六六なり。

#### 第六七及八圖 アゼンスのミナーヴァ、ポリアス、及び

エレクテアス神殿

ミナーヴァ、ポリアス、エレクテアス及びバンドロサスの各神殿は一建築物をなして、パーセノン神殿の北凡そ一五〇呎の所に立てり、ミナーヴァ、ポリアス神殿は西にエレクテアス神殿は東に面し、南面したるバンドロサス神殿の屋

盤と屋根とはカリヤ女像を以て支へたり、ミナーヴァ、ポリアス神殿は二個の柱内法の前廊を有し、其面積凡そ三三呎六吋に一七呎六吋なり、柱の直径二呎九吋四、即ち一度は〇吋五五七二とす、エレクテアス神殿は唯一の柱内法の前廊を有し、前面凡そ三七呎あり、柱の直径二呎三吋八、一度は〇吋四六三三なり。

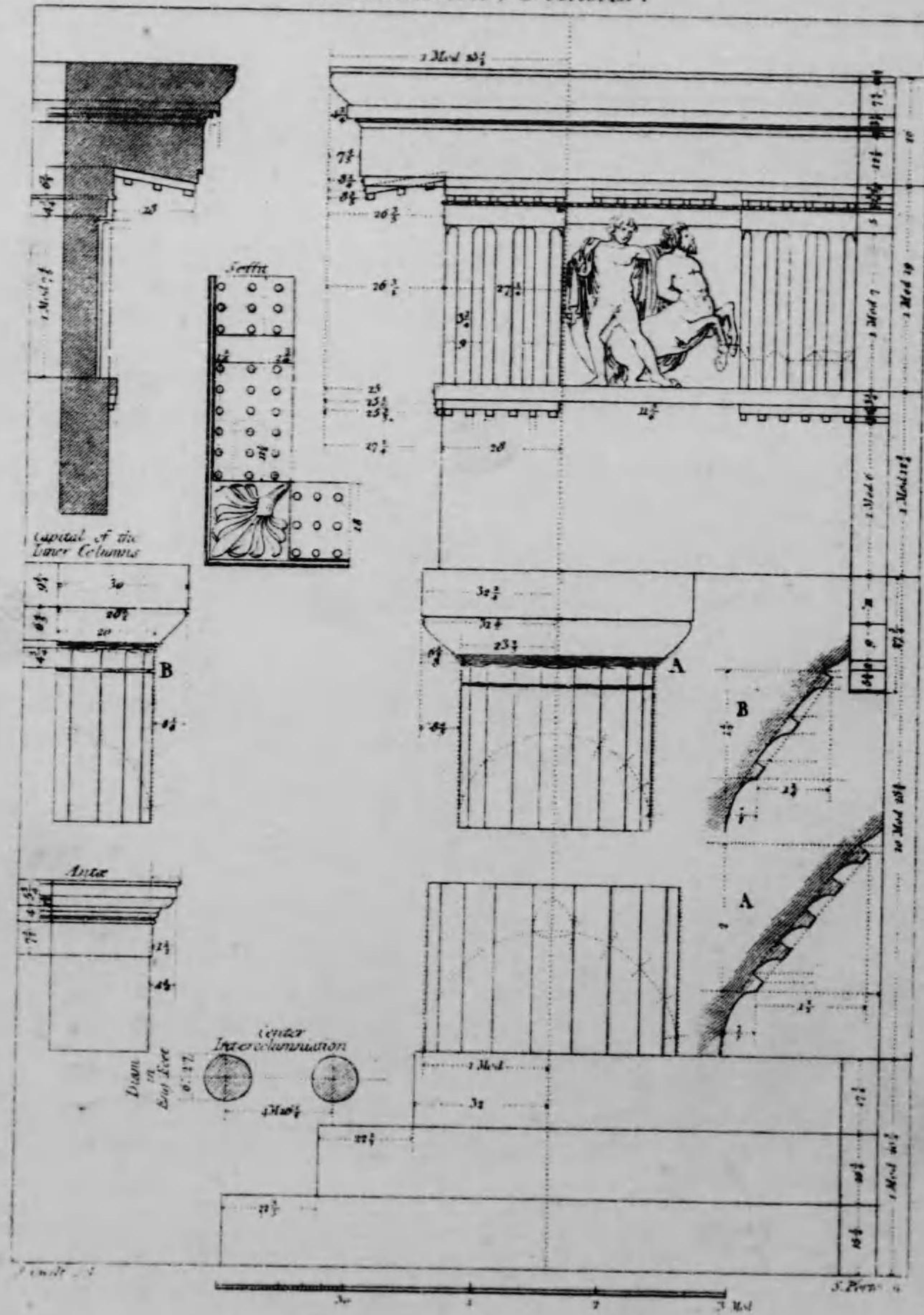
#### 第九圖 リシクラテスの記念碑

所謂デモステネスの燈を俗に稱するものにて、アゼンスの衛城(Acropolis)の東端にあり、四角形の下床(base)圓形の柱廊及び圓頂(cupola)より成れり、此建築物の直径は下段に於て一〇呎八吋を有す、柱の直径一呎一時二、即ち一度は〇吋二二二なり。

#### 第十圖 ジュピター、オリンピアス神殿

こはアゼンスに於ける最も偉麗なる遺跡の一なり、ジュピター神殿となすは誤にて恐らくは或前廊の遺物ならん、外壁は三七六呎に二五二呎の長方形の敷地を圍み、其中央に門の遺物あり、前面は悉くコリンシヤン式柱を列ね、兩端はコリンシヤン式壁柱(pilaster)を配したる凸壁等を設けたり、柱はもと十八個ありたり、内四個は溝を施して上段の前面の中央にありて、屋盤と破風を支へ、門前に

GRECIAN ARCHITECTURE.  
*Parthenon, Athens.*



Published by the Proprietors of the Building News, 1860.

美術的建築 終

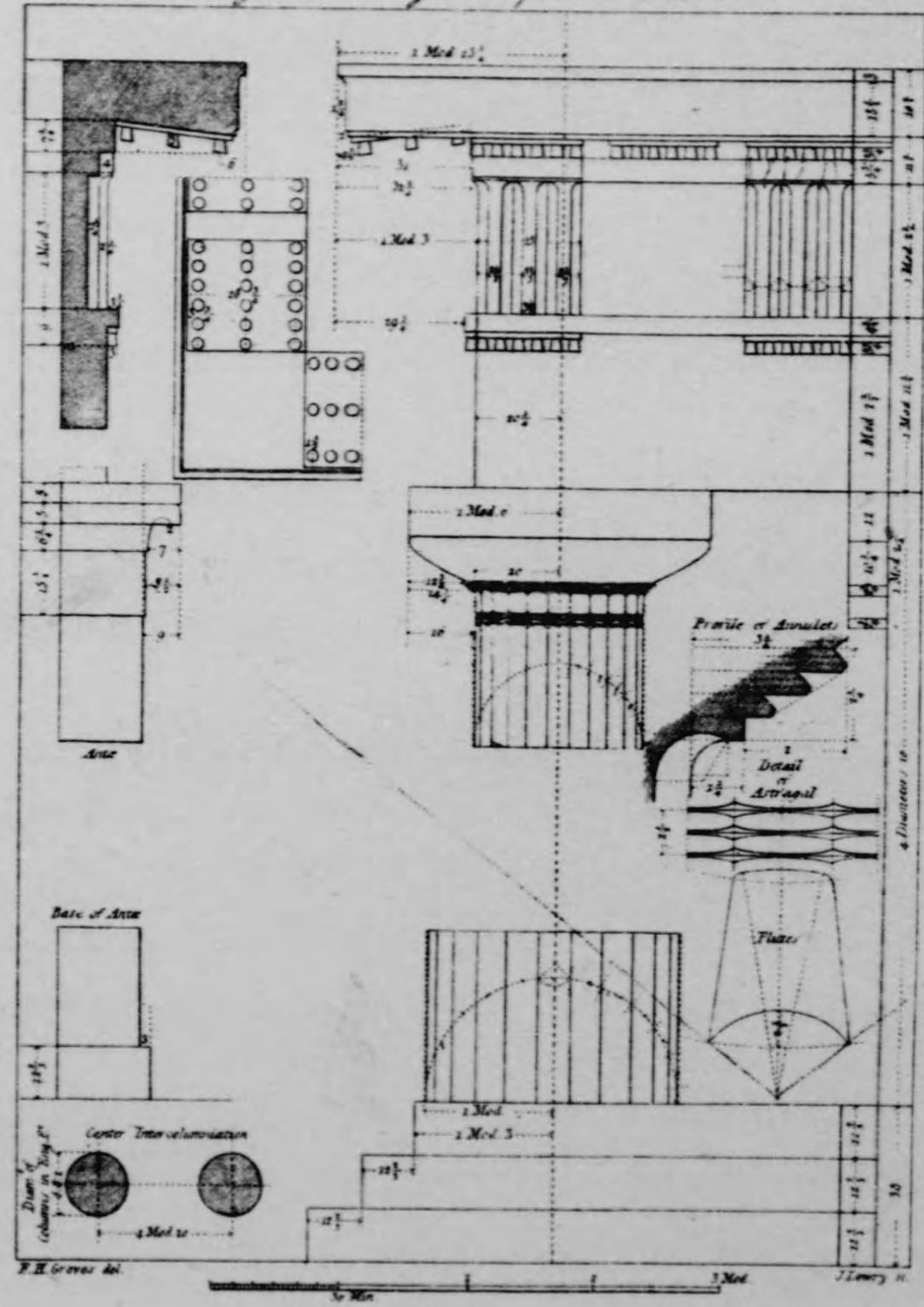
美術的建築

前廊を形成したり、其兩側に各七個の柱ありしが何れも溝無く前廊の上段と水平の柱座の上に立てり、柱頭の冠板は羅馬ヴェスタ神殿の如く鋭き角度を有す、溝ある柱身の下部は索狀裝飾を施せり、柱の直径二呎一吋三、一度は〇吋五八八三なり。

第十一圖 ミナーヴァ、ポリ阿斯神殿の窓

ミナーヴァ、ポリ阿斯神殿の窓には側面の剝形を詳細に示せり、カリア女像の一はバンドロサス神殿、二はタウンレーの採集したるものより撰抜して掲げたり。

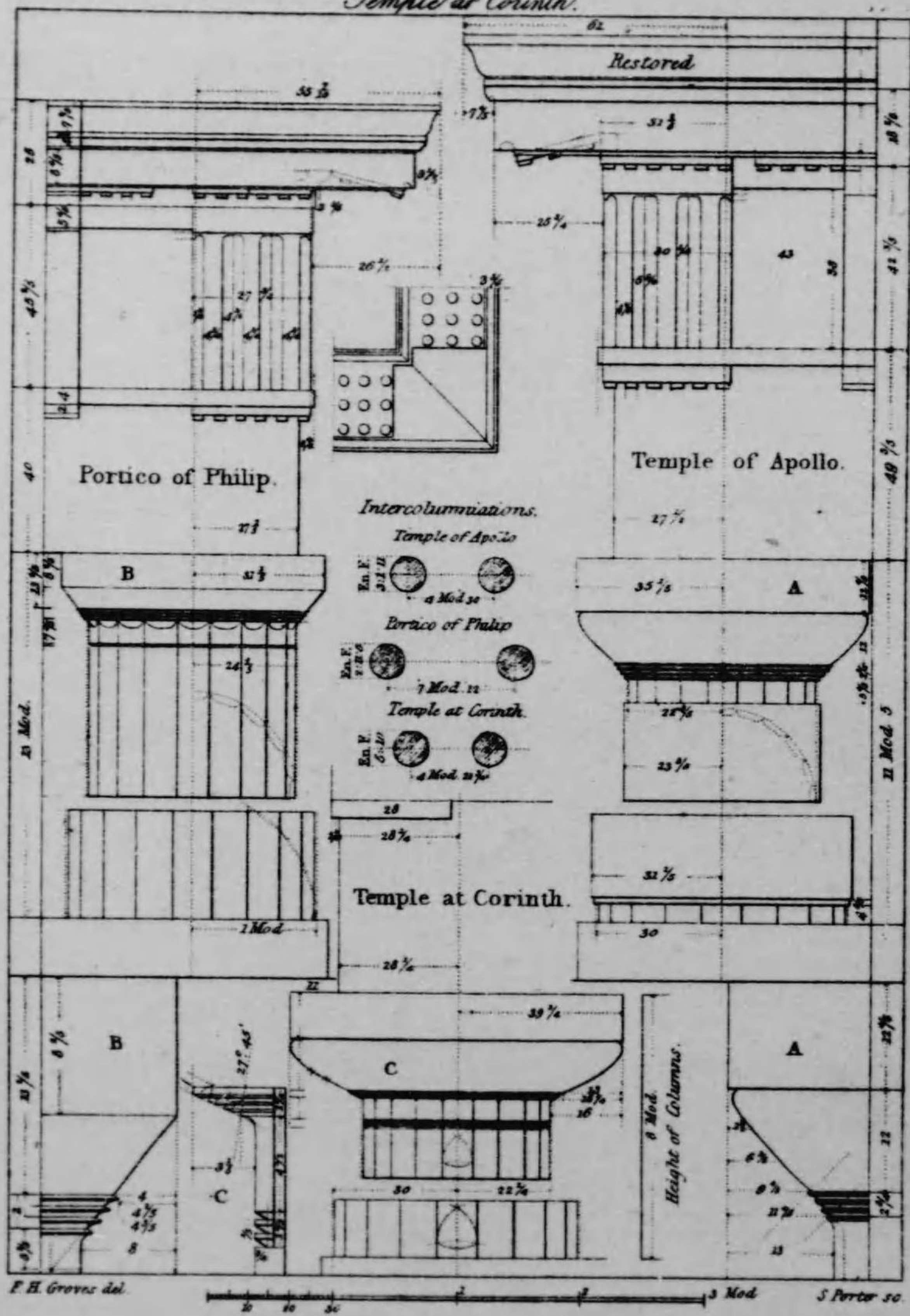
GRECIAN ARCHITECTURE.  
*Great Hexastyle Temple at Paestum.* PL. 2



Published by the Proprietors of the Building News, 1860.

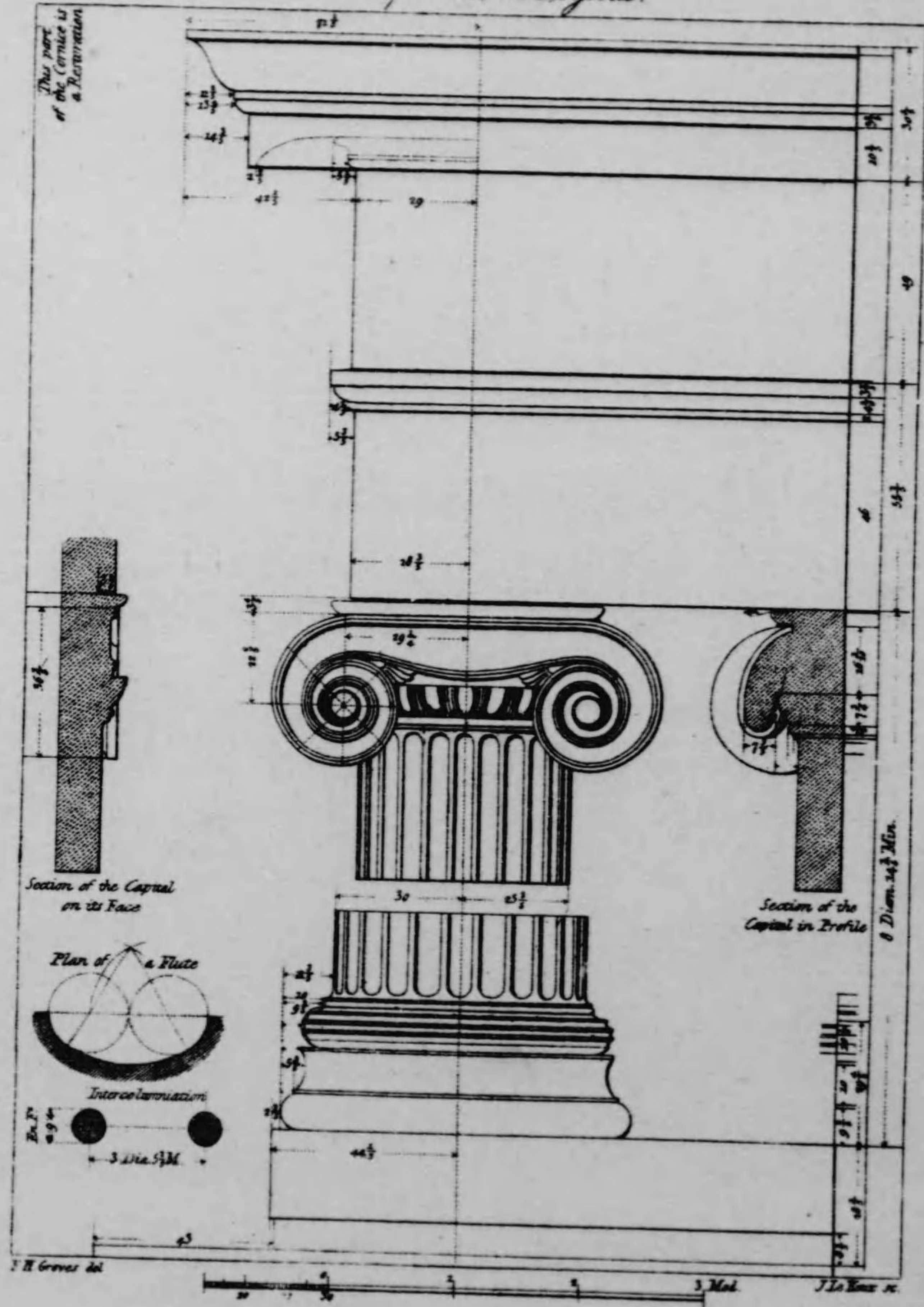
GRECIAN ARCHITECTURE

Temple of Apollo. Portico of Philip in the Island of Delos and Temple at Corinth.

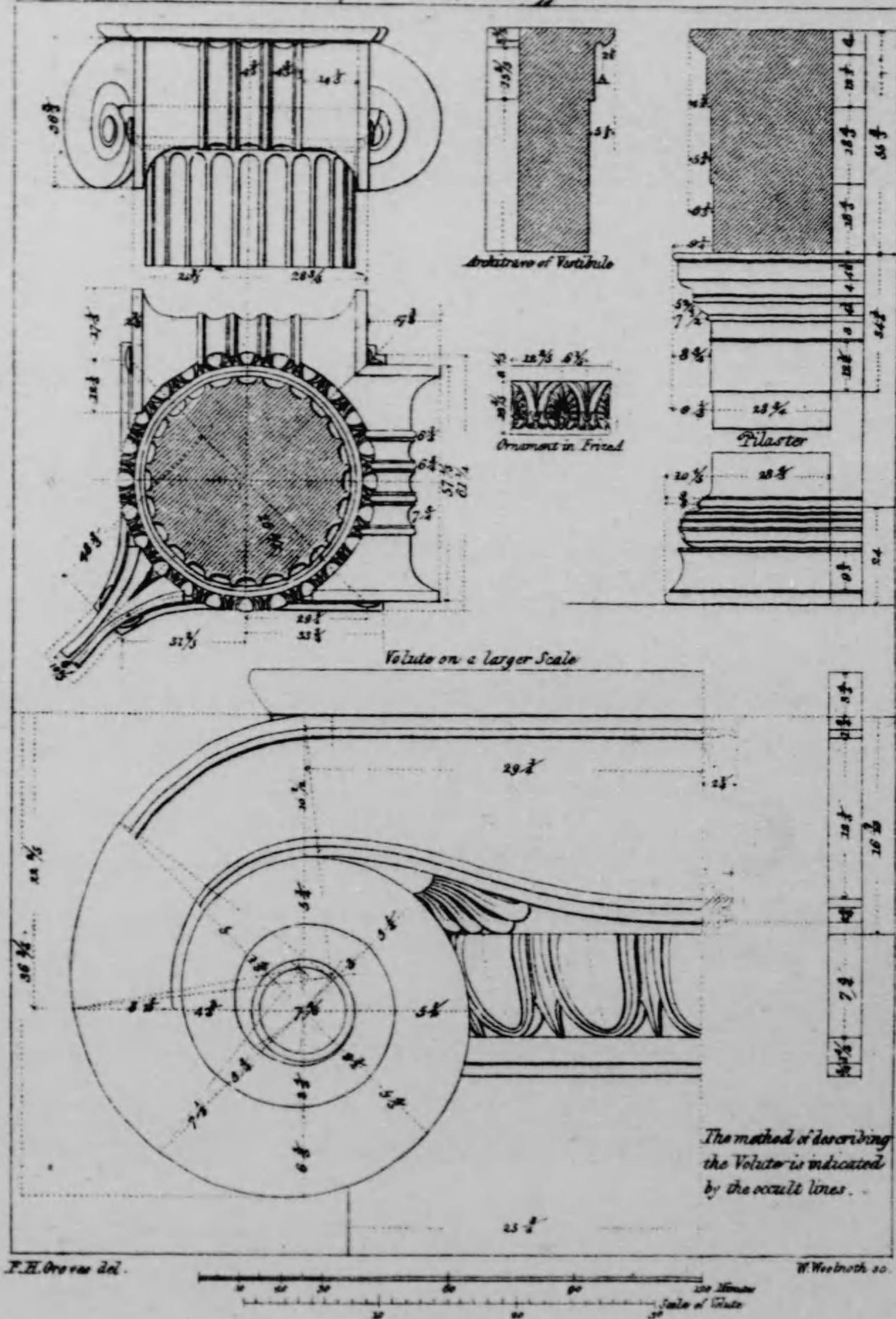




GRECIAN ARCHITECTURE  
*Temple on the Acropolis.*

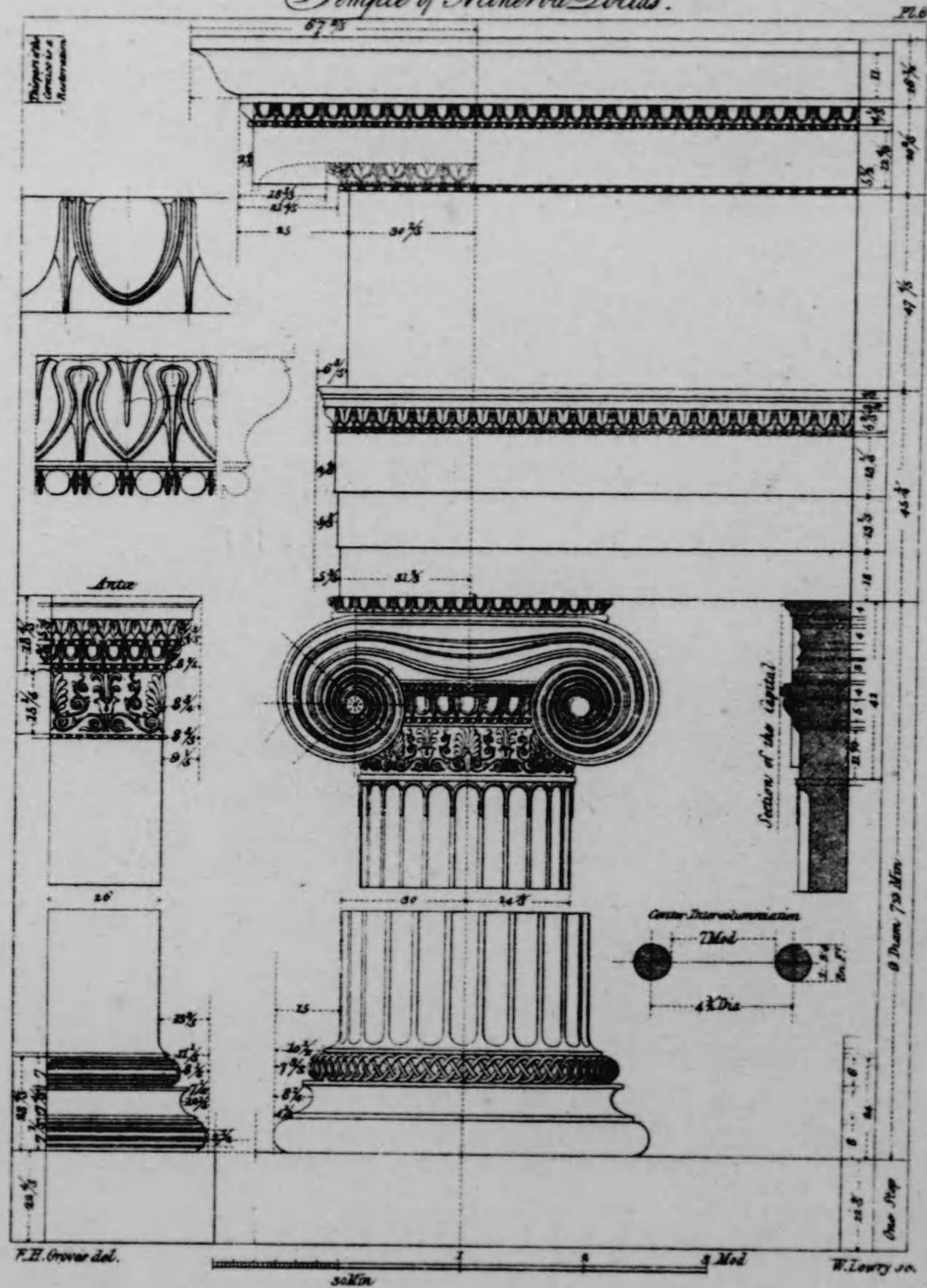


GRECIAN ARCHITECTURE  
*Temple on the Acropolis*

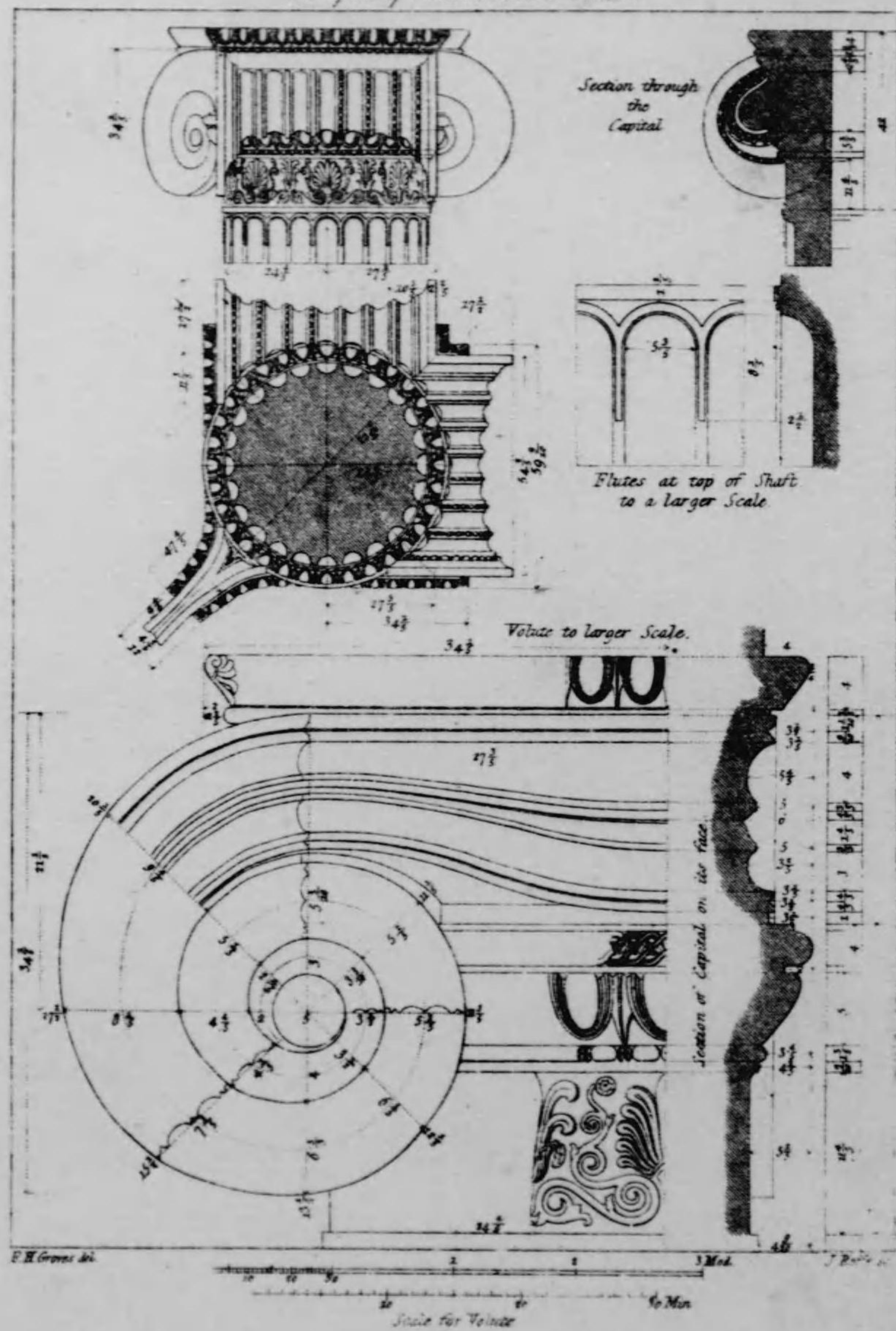


The method of describing the Volute is indicated by the occult lines.

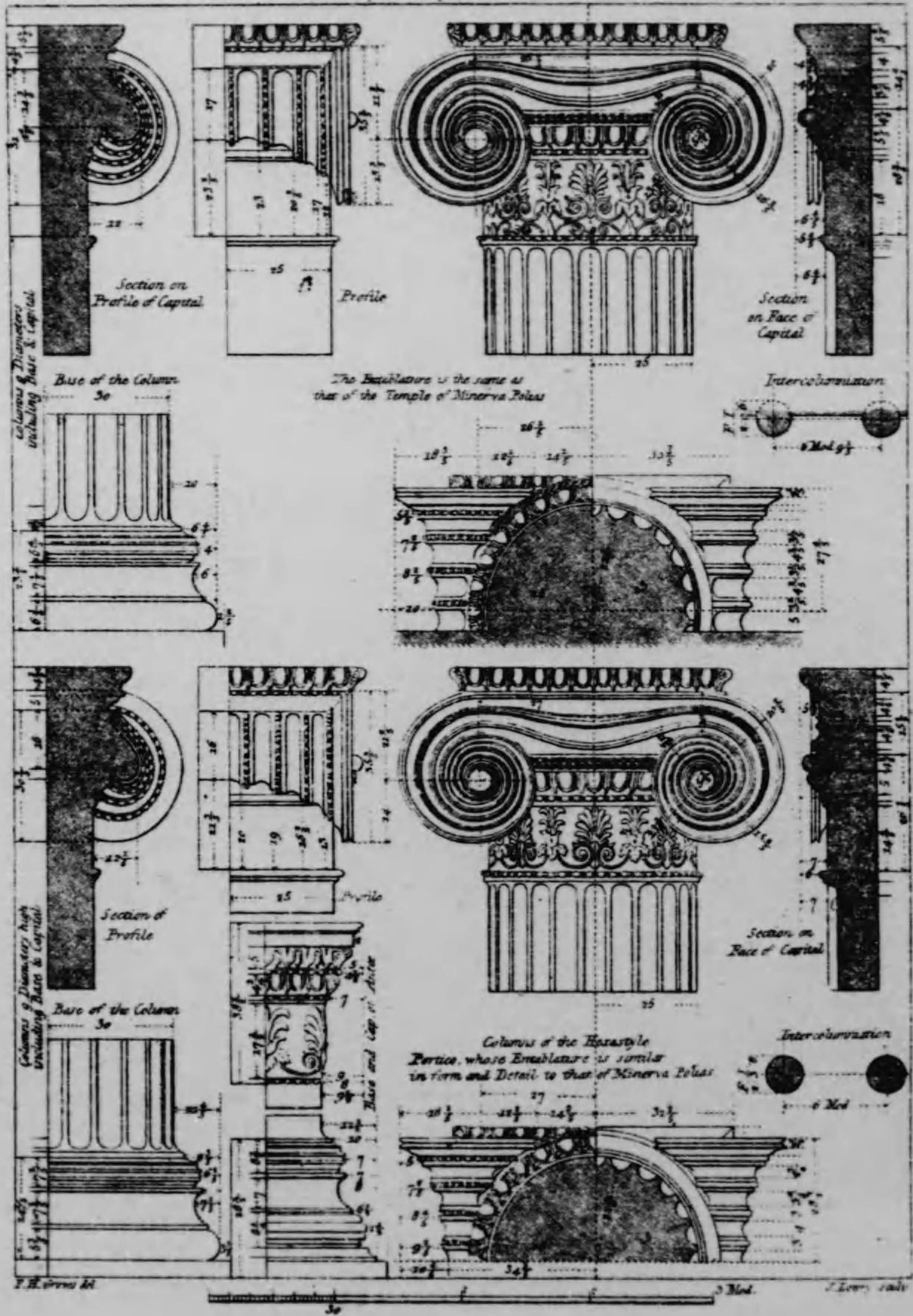
GRECIAN ARCHITECTURE  
*Temple of Minerva Polias.*



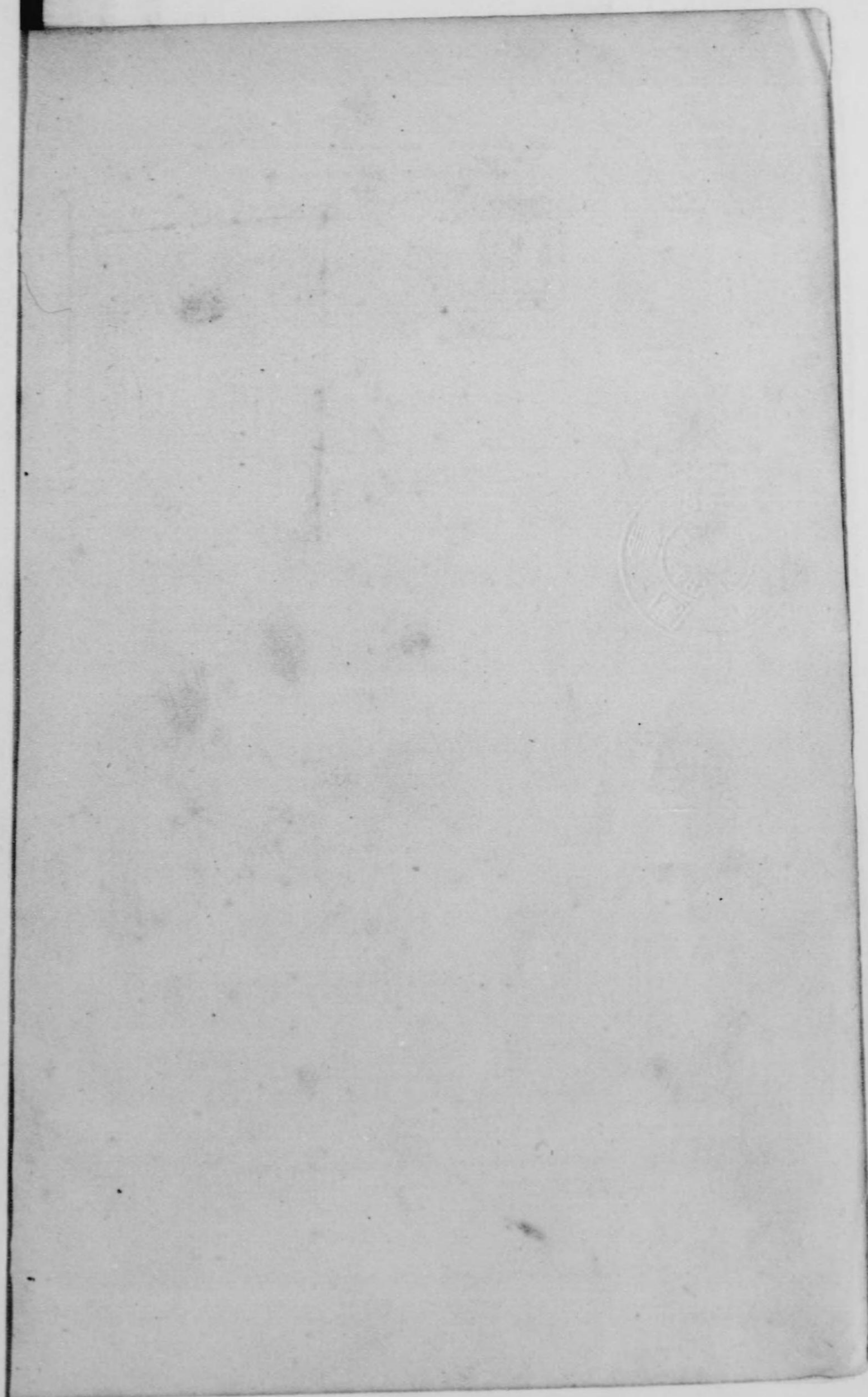
GRECIAN ARCHITECTURE.  
*Temple of Minerva Polias.*



GRECIAN ARCHITECTURE.  
*Temple of Erechtheus*



欠





Architrave 軒緣  
 Archivolt 曲額緣  
 Attic 屋上半階, 半階  
 Astragal 玉緣, 凸圓形剞形  
 Arcade 迫持棚, 拱廊  
 Arch 迫持  
 Abacus 冠板  
 Abutment 迫持受  
  
 Base 礎盤, 柱底, 底盤  
 Bead 玉緣  
 Beam 梁  
 Basilica 廊殿  
 Baluster 欄子  
 Basement 下床  
  
 Cavetto シヤクリ形  
 Console 持途  
 Cove 弓形折上  
 Coffin 深鏡板  
 Cabling 索狀裝飾  
 Corona (蛇腹)上部  
 Cyma 波狀剞形  
 Cincture 飾輪, 帶輪  
 Column 柱  
 Capital 柱頭  
 Cornice 蛇腹  
  
 Dentil 齒狀裝飾  
 Drop 化粧玉  
 Diminution 尖細, 尖削, 削減  
 Die (dye) 覆臺  
  
 Engaged 塗込メル, 附(柱)  
 Entablature 長押, 屋盤  
  
 Flute, fluting 溝  
 Freize 中層  
 Fillet 小緣  
 Fascia 凸線, 小壁, 凸壁  
 Flank 妻  
 Fret 卍字模樣

Groin 稜  
  
 Intercolumniation 柱內法  
 Impost 臺輪  
  
 Joist 小桁  
 Jamb 方立, 抱キ  
  
 Lath 壁骨  
  
 Metope 大間  
 Modillion 軒持送  
 Moulding 剞形  
 Mutule 軒飾  
  
 Niche 壁龕  
  
 Ogee 鳩胸剞形  
 Ovolo 丸身剞形  
  
 Plinth 柱脚  
 Pedestal 柱座, 臺座  
 Panel 鏡板, 羽目板  
 Pavement 敷床  
 Pilaster 壁柱  
 Pier 間壁  
 Pendentive 隅折上  
  
 Rafter 檼  
 Rustic 荒細工  
  
 Scotia 缺首剞形  
 Surbase 柱座蛇腹  
 Shaft 柱身  
 Soffit 下端  
  
 Talon 嘴狀剞形  
 Torus 圓形剞形  
 Triglyph 豎筋輪樣  
 Term 境石, 人頭方柱  
 Tribune 高壇  
  
 Vase 大斗下地  
 Volute 渦形



大正六年十一月二十八日印刷  
大正六年十二月十七日發行

美術的建築

定價金五圓

工學士

中村與資平

著者 磯村銳次郎

發行者 東京市四谷區愛住町二番地

印刷者 堀内關太郎

東京市四谷區愛住町二番地

印刷所 報文社

東京市麴町區有樂町二丁目一番地



發行所

東京書院

東京市四谷區愛住町二番地

電話番町二一  
振替貯金口座東京七九八三番

365

65

終

